

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年3月15日】第76号



## すてきなカレンダーができました

農大稲花小にはいわゆるPTAの組織はありません。しかし、学校法人東京農業大学に属する2つの大学、3つの高校、2つの中学校、そして本校では、それぞれ保護者による「教育後援会」が組織され、保護者の親睦や学校の教育への後援＝応援などが行われています。とはいえ、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、いずれの教育後援会もやむを得ず活動を縮小してきました。

そのような中、本校教育後援会では、10月に行われた親子いも掘り大会に続き、この冬には「年賀状で発表しよう！みんなのチャレンジ2021！」を行いました。このイベントでは年賀状の形式で、子どもたちが今年チャレンジしたいことを書き、小学校に郵送したものを集積し、それをすてきなカレンダーとして配布しました。

子どもたちの夢があふれるこのカレンダーは、各ご家庭に配布しただけでなく、理事長 大澤貫寿先生、東京農業大学学長 高野克己先生をはじめ、ご関係の皆様にもさっそくご覧いただきました。難しく鬱々することの多い毎日ですが、子どもたちの夢やかわいい絵は、誰もの心を和ませます。この企画にご尽力くださった役員の皆様、ご協力くださった保護者の皆様にも御礼申し上げます。



1期生(2年生)



2期生(1年生)

## 給食の配膳

3月8日(月)から、児童による給食の配膳が再開されました。ほぼ1年ぶりのことです。すでに給食の配膳を児童が行っている小学校も多いと聞いていましたが、本校の給食は充実しており品

数が多いこと、また、何よりも安全第一という考えかたから、慎重に考えてきました。しかし、学校全体で感染防止策が定着してきたことや、他校の実績から安全が確保できると判断し、再開に踏み切りました。

普段なら1週間単位での給食当番ですが、3学期中に全児童が当番を体験できるようにということから、当番は毎日交代です。マスク、エプロン、三角巾と必要なものを忘れずに持参する、手を洗い身支度をし、先生の指示にしたがって安全に配膳するというチャレンジでしたが、1年生も2年生も真剣に取り組み、いつもより早く「いただきます」ができたクラスもあったと報告を受けました。授業を時間通り(あるいはちょっと早く)終わらせて子どもたちを教室に戻せるよう、授業をする教員も協力しました。また、当番ではない子どもたちが、手を洗ったあとは歩き回らずに静かに着席して待つという姿勢も大切です。中には三角巾を忘れて給食当番ができずに、号泣した子どももいたと聞きました。誰もが真剣に給食当番に取り組んだことを喜んでいきます。

子どもたちにはこの調子で、新学期からの給食当番に取り組み、おいしい給食を楽しんでほしいものと思います。引き続きご家庭でも、食卓を清拭する、お膳立てする、ご飯や汁物、おかずなどを箸、トング、お玉などを使って注意深くよそう、食前や食後のお運びをするなどのお手伝いの機会を作っていただくようお願いいたします。

## 東日本大震災から10年

3月11日(木)は、東日本大震災、そして発生から10年の年月を振り返る日となりました。農大稲花小の子どもたちが生まれる前の出来事ですが、保護者の皆様にはそれぞれの体験、思い出があることでしょう。児童の発達の段階に合わせて、その経験や思いを伝えていきたいものです。

## 本や備品が到着

理科室にガイコツがいる！ 子どもたちが理科室のドアから興味津々で覗いています。農大稲花小では今、年度末を機会に、来年度に必要な教具、図書などの購入や配置を進めています。ガイコツ、すなわち人体標本は理科の教材です。理科室には顕微鏡、音の実験キット、天体望遠鏡、熱の実験に必要な器具など、多様な品が届けられ、一つ一つ検品の上、収納されていきました。図書室にもこれから約2500冊の本が新たに届けられます。本校は本が好きな子どもたちが多くてうれしいところですが、新しく3年生になる子どもたちが満足できる中学年以上向けの本の充実も図りました。もちろん、机や椅子も、届けられています。ホワイトボードが見やすいように新たにカーテンを追加した教室もあります。

細かいところでは、来年度に使うノート、辞書、ドリルなども教員が相談しながら決定した後、購入手続きをしています。毎年の教育を振り返り、必要なものを揃えていくとともに、PD

CAを回すことによって不必要なもの、不適切なものは潔く購入停止にするという判断も求められます。これからも、子どもたちの確かな学力の定着を第一に考えていくことにします。

まもなく3学期も終わり、子どもたちは様々なものを持ち帰りますが、新年度の始業式までに、学用品の点検や補填、教科書やノートの確認や手入れ、やり残したドリルの完成など、児童とともに取り組んでいただくようお願いします。そして教科書、ノート、ドリル、作品やプリントなどは当面の間、できれば保存しておいていただければと思います。保護者が児童の成果物を大切にすることをすることで、子どもたちはさらに張り切って勉強に取り組むものと信じています。



校長 夏秋 啓子